



特定非営利活動法人
在宅ケアを支える診療所
市民全国ネットワーク

NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

第19回 全国の集い in 新潟 2013

雪割草！

みんなのケアで咲かせよう

～地域包括ケアのある むら・まち を目指して～



開催日 9月22日(日)・23日(月・祝)

場所 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

参加登録・演題募集要項



大会長：黒岩 卓夫（医療法人社団萌気会）
副大会長：上村 伯人（上村医院）
 斎藤 忠雄（斎藤内科クリニック）
 吉嶺 文俊（新潟大学大学院医歯学総合研究科）
 小山 剛（高齢者総合ケアセンターこぶし園）
実行委員長：福田 喜一（潟東クリニック）
副実行委員長：五十嵐 謙一（五十嵐医院）

大会事務局
〒949-7302
新潟県南魚沼市浦佐330-5 浦佐萌気園診療所
TEL 025-788-0880 FAX 025-777-4787
E-mail zaitakunet2013@moegien.jp
<http://homecare-niigata2013.geo.jp/>
事務局長 山本 満智子



NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 名誉会長
第19回 全国の集い in 新潟2013

大会長 黒岩 卓夫

実践交流会へ1年間の成果を持ち寄り熱心に語り合おう。
雪割草!みんなのケアで咲かせよう ―地域包括ケアのあるむら・まちを目指して―

第19回の全国の集いの成功を目指して、新潟の実行委員会(約60人)と事務局は全力をあげて準備を進めています。お陰様で基調シンポジウムやテーマ別企画の講師の先生方も8割方決定しました。今回はワールドカフェ形式の新しい手法にチャレンジし、語りあう場を設けました。

基調シンポジウムは、メインテーマを各界とケアの現場と政策から語り合いたいと思います。そこで基調シンポを2本立て(カプセルとコア)で1本に企画しました。カプセルはケアの現場、コアは国の医療政策に対応します。ケアの現場は現在在宅医療を先導している国立長寿医療研究センター総長大島伸一さんを中心に、政策では慶応義塾大学の権丈善一さんと厚労省社会保障統括審議官の唐澤剛さんをお願いしています。

実践交流会については、私の方からもひと言アピールさせていただきます。なんといっても実践交流会は、在宅診療所ネットのエンジンともいえる場であり、全国津々浦々で日々実践し、その研究や成果を発表していただき、心の通う交流の場となることをめざしています。テーマ別企画は、面白く、楽しく話し合い、時には深刻な場面を想定しつつプログラムを鋭意詰めているところです。さらに全国の集いのオアシスでもある夜の懇親会は、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターに隣接するホテル日航新潟で行ないます。新潟県が明治以来日本の米蔵であったこと、日本の文化の伝承者でもあった北前船の寄港地など豊かな歴史を背景におもてなしと交流の場にしたいと計画中です。

最後に特筆すべきは、ネットワークの名称にも組み込まれている“市民”として「地域のお茶の間運動」で有名な河田圭子さんと市民の皆さんの参加企画があります。また、全ての企画は市民公開で、かつ新潟市との共催となりました。広く市民・県民からの参加が期待されます。

どうぞ全国及び地元からの多数の参加をお願いして御紹介にさせていただきます。



NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

会長 苛原 実

皆さんこんにちは、千葉県松戸市でいらはら診療所を開業しております、苛原実と申します。

私は、2年前の名古屋での全国の集いの際に行われた理事会で、黒岩卓夫名誉会長の後を引き継ぎ、NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの会長に選任されました。老舗の名店舗を引き継いだ出来の悪い2代目の様なものであり、先代の御威光があまりにも輝いていたので、皆様にはいろいろと迷惑おかけしております。

今回の新潟大会は、かなり早い段階から準備をされており、黒岩大会長を始めとする、実行委員の方達の大会成功へ向けた強い意欲を感じております。今回で19回目となる全国の集いですが、大会の基本となるのは、皆さま方の日ごろの職場での試みや経験などを発表する実践交流会にあります。現場での様々な経験を、医療、看護、介護という手段を通じての利用者の方との交流の中から、新しい考え方が生まれてきますし、サービスの質の向上にもつながると思われれます。その点からも是非積極的に、実践交流会に演題を持って参加をしていただきたいと思います。

2012年は在宅医療元年等といわれ、多職種協働の重要性が強調されておりますが、我々在宅ケア全国ネットでは、創設当初より多職種での交流を続けております。実践交流会においても、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護職、等々の職種の方々が一同に会して議論を重ねてきました。その点では、我々は元祖多職種協働であると自負しております。それだけではなく、介護する側、される側の垣根を越えて、利用者の立場である市民を巻き込んだ活動を展開しています。まだまだ、十分とはいえませんが、地域包括ケア時代の先駆けとして、わが国の在宅ケアのあり方に一定の役割を果たしてきたことは間違いありません。

これら活動の原点は、実践交流会にあります。日々の活動を見直し、あるいは反省し、自分たちの足元をしっかりと見つめ直すことで、見えてくるものもあるでしょう。この場で発表することにより、確実に医療も、看護も、介護も改善してゆきます。皆さま方の積極的な参加をお待ち申し上げております。

新潟でお目にかかり、大介護時代をどう乗り切るのか熱く語り合いましょう。皆さまとお目にかかり、話し合うことを楽しみにしております。

第19回 全国の集い in 新潟 2013 実行委員会

大 会 長 _____

黒岩 卓夫（医療法人社団萌気会）

副 大 会 長 _____

上村 伯人（上村医院）

斎藤 忠雄（斎藤内科クリニック）

吉嶺 文俊（新潟大学大学院医歯学総合研究科）

小山 剛（高齢者総合ケアセンターこぶし園）

実 行 委 員 長 _____

福田 喜一（潟東クリニック）

副実行委員長 _____

五十嵐 謙一（五十嵐医院）

実 行 委 員（50音順、敬称略）（2013年3月現在 計58人）

揚石 義夫（揚石医院内科小児科循環器科）

安達 哲夫（坂井輪診療所）

阿部 昌洋（鹿瀬診療所）

阿部 葉子（新潟県医療ソーシャルワーカー協会）

五十嵐昭夫（新潟市医師会）

井佐 恵子（燕福社会白ふじの里指定居宅介護支援サービスセンター）

今村 達弥（ささえ愛よろずクリニック）

上野 憲夫（新潟県薬剤師会）

枝村 和枝（魚沼福祉会）

押山 貴光（上越薬剤師会）

片野 文子（新潟県ホームヘルパー協議会）

河田 圭子（うちの実家夜の茶の間ネットワーク）

黒岩 秩子（社会福祉法人桐鈴会）

小池 雅子（新潟県栄養士会）

西條和佳子（日本グリーンケア協会）

佐藤 宏之（新潟県薬剤師会）

柴田 清孝（新潟県介護福祉士会）

鈴木 重雄（うちの実家夜の茶の間ネットワーク）

高木 顯（新潟県医師会）

高見 優（ささえあいコミュニティー生活協同組合新潟）

竹内 征一（ささえあいコミュニティー生活協同組合新潟）

寺田 治男（守門診療所）

豊岡 覺（うちの実家夜の茶の間ネットワーク）

蓮子 浩行（新潟県言語聴覚士会）

坂西美和子（浦佐認定こども園）

本田 雅浩（ほんだファミリークリニック）

三富 純子（新潟県歯科衛生士会）

宮崎 則男（新潟県介護福祉士会）

吉井 靖子（新潟県訪問看護ステーション協議会）

安達 大子（新潟県栄養士会）

姉崎ミツエ（新潟県看護協会）

阿部 行宏（阿部胃腸科内科医院）

荒井 節男（新潟県歯科医師会）

井口清太郎（新潟大学大学院医歯学総合研究科）

伊藤 知子（新潟県栄養士会）

苛原 実（いらはら診療所）

江部 和人（西蒲中央病院）

大澤 誠（大井戸診療所）

貝瀬 孝子（医療法人社団萌気会）

金井 秀樹（うおぬま調剤グループ）

草間 昭夫（草間医院）

桑野 恵美（新潟県ホームヘルパー協議会）

小林 梢（新潟県歯科衛生士会）

櫻井 馨（新潟県老人福祉施設協議会）

佐藤ゆう子（新潟市高齢者支援課地域支援室）

清水 智子（新潟市保健衛生部保健衛生総務課）

角屋 宗敬（新潟県介護支援専門員協会）

高橋 是司（新潟県介護支援専門員協会）

田沢 義人（田沢内科医院）

塚田 裕子（在宅ケアクリニック川岸町）

富所 慶子（新潟県歯科衛生士会）

野村 隆（新潟県歯科医師会）

畑 恒土（あいち診療所野並：名古屋事務局）

深川 新市（新潟県理学療法士会）

松山 茂樹（新潟県社会福祉士会）

三村 健（新潟県理学療法士会）

山田小百合（新潟県作業療法士会）

吉永 隆行（チャンネル・コンピューター・プリント：東京事務局）

大会事務局

事務局長：山本満智子（医療法人社団萌気会）

事務局員：笠原 縁里・佐藤 恵・栗原 哲也（医療法人社団萌気会）

新保 努（上村医院）

菅家 恵・伊藤 謙二（うおぬま調剤グループ）

第1日目／9月22日(日)

会場 時間	メインホール	201 A	201 B	203+204	301 A
イスのみ	1000	120	120	80	120
机あり	700	84	84	63	84
08:30	受付				
09:00	開会式 黒岩卓夫大会長挨拶 苛原実会長挨拶 新潟県知事挨拶（予定） 新潟市挨拶（予定）				
09:30	黒岩大会長基調講演 司会：福田善晴（前大会長）				
10:00	休憩【15分】				
10:15	基調シンポジウム① 「地域包括ケアのあるむらまち」 ～新たなむらまちおこしの立場から～ 大島 伸一 (国立長寿医療研究センター総長) 調整中 (新潟市関係者) 小山 剛 (社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園総合施設長) 苛原 実 (NPO法人 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク会長) 河田 圭子 (うちの実家・夜の茶の間ネットワーク世話人) 司会：黒岩 卓夫（大会長） 福田 善晴（前大会長）	基調シンポジウム② 「地域包括ケアのあるむらまち」 ～社会保障と税の一体改革は何をもたらすのか～ 発言者 権丈 善一 (慶應義塾大学教授 社会保障制度改革国民会議委員) 唐澤 剛 (厚生労働省政策統括官(社会保障担当))			
12:00		司会：青木 佳之（青木内科小児科医院） 中嶋 久矩（医療法人啓友会）			
	休憩（20分）			休憩（20分）	
12:20	ランチョンセミナー	(会場転換)		ランチョンセミナー	ランチョンセミナー
13:20					
13:30	(会場転換)	実践交流会 1	実践交流会 2	実践交流会 3	実践交流会 4
		緩和ケアと看取り	在宅生活の継続 (住宅と独居)	訪問& 通所サービス	小児と子育て支援
		【座長】 中嶋 啓子 (医療法人啓友会) 草間 昭夫 (草間医院)	【座長】 石田 一美 (秋櫻醫院) 片野 文子 (新潟県ホームヘルパー協議会)	【座長】 岡崎 和佳子 (有限会社 菜の花) 佐藤 宏之 (新潟県薬剤師会)	【座長】 阿武 義人 (医療法人社団 青藍会) 坂西 美和子 (医療法人社団萌気会)
15:00		前半	前半	前半	前半
		休憩（20分）			
15:20		後半	後半	後半	後半
17:30					
18:15	懇親会（場所：ホテル日航新潟）				
19:45					

301B	302A	302B	303+304	305	306+307	国際会議室
120	120	120	80	40	80	548
84	84	84	63	27	63	230
22日(初日) <国際会議室>にて ワールド★カフェ開催 NPO 在宅ケア★カフェ 全国の仲間とフリーで話合ってみたい方！ 一言何か言いたい！ こんなことを提案したいという方！ 大集合！！ 定員：40名(先着順) 【座長】金井 秀樹(うおぬま調剤グループ) 参加申し込み方法： 大会ホームページより → Peatix から『問い！(テーマ)』のご提案も受け付けております。 						ポスター展示
休憩(20分)						
ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー COPDの診断と治療(仮) 講師：高瀬 義昌 (医療法人社団 至高会 たかせクリニック) 座長：調整中 共催：日本ベリンガー インゲルハイム株式会社	ランチョンセミナー	
実践交流会 5	実践交流会 6	実践交流会 7	実践交流会 8	実践交流会 9	実践交流会 10	ポスター発表
多職種情報共有	ケアマネジメント	口腔ケアと 栄養管理	認知症	薬と生活	地域包括 ケアシステム	ポスター発表&テーブル ディスカッション ワールドケア★カフェ
【座長】 桑原 由次 (NPO 法人セカンド リーグ埼玉)	【座長】 金田 弘子 (医療法人社団 もりもと)	【座長】 大川 延也 (大川歯科医院)	【座長】 大澤 誠 (医療法人あづま会)	【座長】 上野 憲夫 (新潟県薬剤師会)	【座長】 吉永 隆行 (チャンネル・コンピュー ター・プリント)	演題の応募数に よって対応
貝瀬 孝子 (医療法人社団萌気会)	新保 努 (上村医院介護支援室)	安達 大子 (新潟県栄養士会)	阿部 葉子 (新潟県医療ソーシャル ワーカー協会)	田沢 義人 (田沢内科医院)	松山 茂樹 (新潟県 社会福祉士会)	
前半	前半	前半	前半	前半	前半	前半
休憩(20分)						
後半	後半	後半	後半	後半	後半	後半

第2日目／9月23日(月・祝)

時間	会場	メインホール	201A	201B	203+204	301 A	301B
イスのみ		1000	120	120	80	120	120
机あり		700	84	84	63	84	84
08:00							
09:00		＜市民枠＞ 新潟発「地域のお茶の間」は、なぜ広がり続ける？ 【座長】 河田 珪子 (うちの実家・夜の茶の間ネットワーク世話人) 【講演】 上野 千鶴子 (ウィメンズアクションネットワーク理事長) 【鼎談】 上野 千鶴子 黒岩 卓夫 河田 珪子	＜シンポジウム＞ 地域医師会の取り組みと行政との連携 【座長】 吉沢 浩志 (新潟県医師会 副会長) 【シンポジスト】 調整中 (日本医師会又は厚生労働省) 佐藤 賢治 (佐渡総合病院外科 (全島ネット)) 調整中 (長崎医療ネット) 調整中 (県内市町村行政)	＜公開事例検討会＞ 認知症の人の自律のために ～認知症医療とケアの“倫理”という視点～ 【座長】 稲葉 一人 (中京大学法科大学院教授) 【コメンテーター】 眞岡 真子 (東京大学大学院医学系研究科客員研究員) 大澤 誠 (大井戸診療所院長)	＜シンポジウム＞ 在宅医療連携拠点事業を今後の在宅医療の充実につなげるか？ 【座長】 本田 雅浩 (ほんだファミリークリニック) 【シンポジスト】 調整中	＜シンポジウム＞ 障がい者の「ケア」を受ける立場から、「自立」への道を探る 【座長】 黒岩 秩子 (社会福祉法人 桐鈴会理事長) 【シンポジスト】 伊藤 知之 (社会福祉法人 浦河べてるの家) 庭野 正夫 (グループホーム ひまわり利用者) 武田 恭子 (新潟市在住) 山内 俊博 (社会福祉法人 自立生活福祉会)	＜シンポジウム＞ 「咀嚼」が看護・介護で求められている 【座長】 荒井 節男 (新潟県歯科医師会 理事) 【シンポジスト】 加藤 武彦 (加藤歯科医院 歯科医師) 古志 奈緒美 (社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院)
11:35							
		休憩 (15分)					
11:50			ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー
12:50							
		休憩 (10分)					
13:00		＜市民枠＞ 新潟発「地域のお茶の間」は、なぜ広がり続ける？ 【座長】 河田 珪子 【シンポジスト】 大平 芳昭 (社会福祉法人新潟市事業協会有明福祉会館館長) 北 悟 (佐渡市社会福祉協議会福祉課長) 坂倉 杏介 (慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所／地域連携センター特任講師) 島崎 敬子 (新潟県立大学人間生活学部子ども学科教授) 鶴山 芳子 (公益財団法人さわやか福祉財団ふれあいの居場所推進プロジェクトリーダー)	＜シンポジウム＞ 地域包括医療の確立のために ～いかに病院と連携していくか～ 【座長】 五十嵐 謙一 (五十嵐医院院長) 山口 潔 (前東大病院地域医療連携室室長／東京大学医学部附属病院老年病科特任助教) 【症例提示者】 片野 文子 (新潟県ホームヘルパー協議会) 【シンポジスト】 五十嵐 謙一 斎川 克之 (済生会新潟第二病院地域医療連携室) 豊島 宗厚 (新潟医療センター 病院院長) 川井 紀子 (社会福祉法人新潟市社会福祉協議会) 渡邊 一枝 (訪問看護ステーションさんわ)	＜シンポジウム＞ 災害と在宅ケア 【座長】 小山 剛 (高齢者総合ケアセンターこぶし園総合施設長) 【コメンテーター】 友保 洋三 (元国立病院機構災害医療センター臨床研究部長) 【事例提供者】 長 純一 (石巻市立病院開成仮診療所長) 稲垣 文彦 (社団法人中越防災安全推進機構復興デザインセンター長) 黒田 裕子 (NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長)	＜シンポジウム＞ 延命・胃ろうについて考える 【座長】 揚石 義夫 (揚石医院内科小児科循環器科院長) 【基調講演】 高橋 泰 (国際医療福祉大学 大学院教授) 【シンポジスト】 合志 聡 (新潟厚生連上越総合病院消化器内科部長) 調整中 (介護施設)	＜シンポジウム＞ 仏教ホスピスビハラーと日本のケアについて 【座長】 黒岩 卓夫 (第19回全国の集い in 新潟 2013 大会長) 【シンポジスト】 多賀 裕美 (医療法人崇徳会 長岡西病院ビハラー病棟看護師長) 青木 新門 (「納棺夫日記」著者) 大下 大圓 (千光寺住職) 柳本 雄司 (新潟良寛会会長)	＜シンポジウム＞ 新潟水俣病と放射能被害と在宅ケアについて 【座長】 高見 優 (ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟専務理事) 【コメンテーター】 斎藤 恒 (木戸病院名誉院長) 【事例提供者】 丸山 公男 (青陵大学教授) 他 調整中
15:30							
15:40		閉会式					
16:00							

302 A	302 B	303+304	305	306+307	国際会議室	ホテル日航新潟「朱鷺」
120	120	80	40	80	548	570
84	84	63	27	63	230	300
NPO 総会						
<シンポジウム>	<シンポジウム>	<シンポジウム>	<シンポジウム>	<シンポジウム>	<シンポジウム>	<理事会企画>
介護予防を考える 【座長】 上村 伯人 (上村医院院長) 【基調講演】 鈴木 隆雄 (独立行政法人国立長寿医療研究センター研究所長) 【シンポジスト】 田中 かおる (妙高市地域包括支援センター主査) 大森 豪 (新潟大学研究推進機構超域学術院教授) 星 俊寛 (NPO法人エンジョイスポーツクラブ魚沼健康運動指導士)	退院から終末期まで～人生の様々なステージにおけるリハビリテーションの役割～ 【座長】 三村 健 (新潟県理学療法士会) 山田 小百合 (新潟県作業療法士会) 【シンポジスト】 長谷川 幹 (三軒茶屋リハビリテーションクリニック院長) 小林 修 (社会福祉法人よこた福祉会特別養護老人ホームむらくも苑) 金子 功一 (ながおか医療生活協同組合生協かんだ診療所) 横田 剛 (新潟厚生連柏崎総合医療センター／新潟県作業療法士会会長)	ケアマネジメント 【座長】 枝村 和枝 (社会福祉法人魚沼福祉会うおぬまケアセンター管理者) 【コーディネーター】 服部 万里子 (日本ケアマネジメント学会理事) 【シンポジスト】 田村 千春 (医療法人社団萌気会萌気園居宅介護支援事業所管理者) 他 調整中	医学教育フィールドとしての在宅医療 【座長】 井口 清太郎 (新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座特任教授) 【シンポジスト】 佐藤 勝 (岡山大学医歯学総合研究科地域医療人材育成講座教授) 井上 陽介 (地域医療振興協会湯沢町保健医療センター長) 大平 妙子 (在宅介護支援センター湯之谷管理者)	多職種による在宅患者のバイタルチェックとその情報共有 【座長】 金井 秀樹 (うおぬま調剤グループ代表) 【シンポジスト】 揚石 義夫 (揚石医院内科小児科循環器科院長) 山崎 理 (新潟県福祉保健部副部長) 大木 一正 (有限会社クリーン薬局代表取締役) 高橋 美佳子 (公益社団法人新潟県看護協会訪問看護ステーションにいがた) 大越 幸栄 (社団法人新潟県介護福祉士会理事)	看取り～癌末期だからこそ、安らかに死を迎えたい～ 【座長】 福田 喜一 (潟東クリニック 院長) 【シンポジスト】 塚田 裕子 (在宅ケアクリニック 川岸町院長) 秋山 正子 (株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長) 宮林 幸江 (日本グリーフケア協会会長・自治医科大学看護学部教授) 佐藤 雅彦 (浄心寺住職・大正大学非常勤講師)	認知症ケアのゆくえ～認知症の人を地域・多職種で支えるために～ 【司会】 中嶋 久矩 (医療法人啓友会 めぐみの家専務) 【基調講演】 勝又 浜子 (厚生労働省老健局高齢者支援課認知症・虐待防止対策推進室長) 【シンポジスト】 岡崎 和佳子 (有限会社菜の花) 遠矢 純一郎 (桜新町アーバンクリニック院長) 奇原 実 (NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク会長)
休憩 (15 分)						
ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー
休憩 (10 分)						
<シンポジウム>	<シンポジウム>	<シンポジウム>	<シンポジウム>	<シンポジウム>	<シンポジウム>	<理事会企画>
住民教育と多職種連携 【座長】 井口 清太郎 (新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座特任教授) 吉嶺 文俊 (新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座特任准教授) 【シンポジスト】 藤本 晴枝 (NPO法人地域医療を育てる会理事長) 深井 正 (NPO法人きらめき広場事務局担当理事) 布施 克也 (地域医療魚沼学校校長・新潟県立小出病院院長)	都市型在宅医療について 【座長】 斎藤 忠雄 (斎藤内科 クリニック院長) 【基調講演】 堂垂 伸治 (医療法人社団緑星会どうたれ内科診療所 院長) 【シンポジスト】 新田 國夫 (医療法人社団つくし会新田クリニック理事長・全国在宅療養支援診療所連絡会会長) 井上 多鶴子 (板橋区医師会在宅医療センター在宅看護部長) 田中 尚輝 (NPO法人市民福祉団体全国協議会専務理事)	全国に先駆けて始動した新潟の在宅栄養ケア活動を検証する 【座長】 小池 雅子 (新潟県栄養士会・福祉協議会会長) 【基調講演】 牧野 令子 (新潟県栄養士会栄養ケア・ステーションコーディネーター) 【シンポジスト】 川村 美和子 (新潟県栄養士会) 竹内 則子 (公益社団法人新潟県看護協会訪問看護ステーションにいがた) 高橋 友美 (新潟県栄養士会 長岡支部) 藤塚 寛行 (医療法人恒仁会在宅介護支援センター女池南風苑管理者)	精神科医はアウトリーチの夢を見るか～多職種協働の壁を超えて～ 【座長】 今村 達弥 (ささえ愛よろずクリニック院長) 【シンポジスト】 増子 徳幸 (NPO法人リカバリーサポートセンター ACTIPS 訪問看護ステーション ACT-J 施設長) 増田 典子 (吉備国際大学大学院保健科学研究科博士課程／共済会櫻井病院) 村越 英紀 (新潟市地域包括支援センター新津 MSW)	看護職の役割～それぞれの看護領域のシームレスな連携を目指して～ 【座長】 姉崎 ミツエ (新潟県看護協会) 【コメンテーター】 石飛 幸三 (世田谷区立特別養護老人ホーム「芦花ホーム」医師) 【シンポジスト】 新野 裕美子 (新潟市民病院看護師長) 古澤 弘美 (新潟県立中央病院地域連携センター 看護師長) 吉井 靖子 (高齢者総合ケアセンターこぶし園看護部長) 中川 恵子 (臨港訪問看護ステーション管理者) 小松 順子 (社会福祉法人 苗場福祉会事業部長)	未来を拓く介護の現場 【座長】 宮崎 則男 (新潟県介護福祉士会会長) 【シンポジスト】 篠崎 良勝 (八戸学院大学人間健康学科准教授) 佐藤 妙子 (公益社団法人認知症の人と家族の会新潟県支部) 石山 裕江 (社会福祉法人愛宕福祉会 特別養護老人ホーム豊浦愛宕の園) 調整中 (看護職)	地域を再生・共創する～我々は地域と共にある、地域が変われば我々も変わる～ 【座長】 長縄 伸幸 (鶴沼中央クリニック院長) 【シンポジスト】 調整中

実践交流会演題募集のご案内

実践交流会は、このネットワークの原点です。ひとり一人が、日々の仕事の中で感じた思いを語り合い、流されてしまいそうな問題意識を発信する場です。

全国から職種を越えた仲間たちが集結する新潟大会で、あなたの熱い思い小さな思いを交流会という場を使うことで一步踏み出してみませんか。

1. 今年の実践交流会の特徴

実践交流会の企画は、NPO 在宅ネットワーク理事と地元新潟の実行委員がタイアップして企画運営しています。その職種ならではの企画にご期待ください。

*演題発表は、10 のカテゴリーに分かれています。どのカテゴリーで発表して頂くかは、運営上の都合により主催者側で調整させていただく事もございます。変更についてはあらかじめご相談させていただくこともございます。ご了承ください。各カテゴリーとも多職種で支える在宅ケアの尊い実践のすばらしさをお伝えしたいと考えています。

2. 応募資格

演題発表資格は、医師・法人会員、事業所会員、市民団体会員、市民会員です。入会の申し込みはホームページからできます。

<http://www.home-care.ne.jp/np/nyuukaiannai/>

または、参加登録要項裏表紙の入会申込書にご記入頂き、ネットワーク事務局へ郵送もしくはFAXしてください。演者（発表者）が応募できる演題数は1題のみです。但し共同演者として他の演題に名を連ねることは可能です。

＜各会員区分別の応募可能演題数＞

医師・法人会員	：	正会員1人＋準会員4人まで合計5演題
事業所会員・市民団体会員	：	正会員1人＋準会員2人まで合計3演題
市民会員	：	正会員本人のみ1題

3. 応募カテゴリーについて

各カテゴリーの趣旨は9～12ページを参照してください。

- ①緩和ケアと看取り
- ②在宅生活の継続（住宅と独居）
- ③訪問&通所サービス
- ④小児と子育て支援
- ⑤多職種情報共有
- ⑥ケアマネジメント
- ⑦口腔ケアと栄養管理
- ⑧認知症
- ⑨薬と生活
- ⑩地域包括ケアシステム

- 演題発表・進行などの形式につきましては各座長にて構成させていただきますのでご了承下さい。
- 運営上の都合により発表カテゴリーを調整して頂く場合がございます。ご了承ください。

4. オンライン演題登録 (UMIN) の流れ

原則としてインターネットを利用したオンラインによる演題申込といたします。

※大会ホームページから演題登録できます【演題申込 (新規登録画面)】

⇒ <http://homecare-niigata2013.geo.jp/>

4月15日(月) 演題募集開始(発表の要約内容(400字以内)を登録)

6月18日(火) 演題登録締め切り

6月25日(火) 演題修正締め切り

■新潟大会では抄録集と報告集を作成します。抄録集は事前登録された方に大会前に送付する予定であります。

大会のガイドラインとしてお持ちください。報告集につきましては皆様の発表内容をできるだけ詳細に掲載したいと思いますので、原稿提出にご協力ください。

■演題採択の決定後、ホームページ上、また筆頭者宛にメールにてお知らせします。

口頭発表、ポスター発表どちらかでの発表とさせていただきます。

7月15日(月) 登録演題採択結果・発表カテゴリー、発表形式通知

7月15日(月) 発表原稿投稿開始(パワーポイントファイルを投稿)

8月20日(火) 発表原稿投稿締め切り

■発表プレゼンテーションはPower Pointを使用して下さい。発表時間は10分です。詳細につきましては大会ホームページをご覧ください。

◇演題登録方法

1. 基本事項の入力
2. 文字制限に関して
3. 抄録本文の書き方
4. 倫理・個人情報保護に関するチェック項目
5. 登録の完了
6. 演題受領の確認方法及び注意事項
7. 修正期間
8. 演題の採否
9. 演題応募の締め切り
10. 問い合わせ

※上記項目の登録方法及び各注意事項の詳細説明については大会ホームページをご参照ください。(演題登録方法と注意 PDF)

5. 演題登録時の注意事項 (必ずお読みください!!)

1. 演題名は全角換算で60字以内(副題含む)、発表内容要約文は400字以内、演者名等を含めた総文字数は600字以内です。
2. 文中に改行、ギリシャ文字、上付、 $p < 0.05$ などを含む場合は細かな注意に従って入力してください。なるべく【目的】【方法】【結論】等サブタイトルを設定したわかりやすい形式としてください。
3. 登録画面より電子メールアドレスを入力する際は、必ず本人に連絡がつく電子メールアドレスを入力してください。
4. 演題の受付通知は郵送致しません。登録完了後にUMINより配信される電子メールをもって替えさせていただきます。配信されない場合は、正しく登録されていない可能性がありますので再度手順に従って登録してください。
5. 演題登録の際に任意のパスワードを決めて頂きます。オンライン登録をした後は、確実に登録されているか、確認修正画面にて登録番号とパスワードを用いて必ずご確認ください。各自が設定するパスワードは再発行できませんので必ずお控え下さい。パスワードの保存とその機密保持に関しては登録者の責任になります。演題登録時に発行される登録番号やパスワードを忘れた場合、セキュリティの関係上、問い合わせには一切応じられませんのでご注意ください。
6. 一旦登録した演題は、受付期間内であれば演題登録番号とパスワードを用いることによって何度でも修正可能です。
7. 演題登録締め切り以降、訂正・登録・削除は一切できません。
8. ネットワークやサーバーのトラブル時の連絡及び演題募集期限の延期等の情報はすべて大会ホームページで行ないます。また、演題登録プログラムに関する問い合わせは大会事務局までご連絡ください。UMIN事務局では直接の問い合わせは受け付けておりません。

※ご利用になるコンピューター環境によってはWebサイトから登録できない可能性があります。

(ローカルネットへの外部からの侵入を防ぐ為にファイアーウォールが設定されている場合など) UMIN オンライン演題登録システムでは、Internet Explorer Ver.4.0以上、Netscape Ver.4.0以上、Safari Ver.2.0.3(417.9.2)以降、Firefox 全てのバージョンで動作が確認されています。

演題登録に関するお問い合わせ先

なのはな調剤薬局

〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐4135番地4

担当: 伊藤 謙二 電話: 080-8731-3426

E-mail: it@uonuma-ph.jp

各カテゴリーの趣旨

1. 緩和ケアと看取り

座長 中嶋 啓子（医療法人啓友会 なかじま診療所）

草間 昭夫（草間医院）

- キーワード 緩和ケア 緩和介護 ペインコントロール
地域包括ケア お一人さま 無縁社会
多職種協働
- 演題例 1. 家族がいない BPSD を伴った肝臓がんの看取り
2. 野垂れ死に希望の利用者と家族の考えの違いに苦労したネットワークの看取り
3. 独居の後見人制度の利用について考える
4. 2人ともがんの高齢者世帯支えた
5. アルツハイマー型認知症の看取り
6. 経管栄養拒みながら最後胃ろうになった例
- 趣旨 国民の2人に1人がかかり、3人に1人は亡くなるがん時代と言われています。がん対策として包括的がん医療として看取りの場を病院から在宅へ移行する対策が取られています。しかし在宅では家族の介護負担が著しい為、本人と家族とも納得しない限り誰もが選べる

時代とはなっていません。一方日本の死亡者の2/3は非がん患者です。心不全や肺炎を繰り返しながら加齢とともに死に近づく方もあります。本来人間は暮らしの中で生まれ暮らしの中で死んでいきました。家族や友人と近い所で亡くなっていきたいと本能的希望があると思います。独居、高齢者世帯が増えている中地域を選ぶことは中々困難になっていますが、我々、在宅ネットワークは地域包括ケアのパワーを以て一人でも住み慣れた地域で最後まで過ごしたい人をサポートしていきたいと考えています。在宅での治療ケアの本質は苦痛を和らげ安心して生活できること「緩和ケア」だと思います。家族友人に囲まれ、家族がない場合、医療ケアのネットワークに囲まれ、最期までその人らしい生活を実現する実践報告をお願いします。

2. 在宅生活の継続（住宅と独居）

座長 石田 一美（秋桜醫院）

片野 文子（新潟県ホームヘルパー協議会）

- キーワード サービス付き高齢者住宅
有料老人ホーム（住宅型）
高齢者の共同住宅
住宅の改修
- 演題例 独居をチームで支える
独居高齢者の見守り
- 趣旨 我が国が、今後迎える超高齢社会を乗り切る手立てとして「地域包括ケア」の考え方がだされ、それを実現するための5つの視点として、医療、介護、予防、生活支援とともに「住まい」が取り上げられました。

しかし、私たちは以前から、住み慣れた地域での在宅ケアを支える実践の中において、医療は生活の上に成り立つことを痛感し、また、その生活の場としての「住まい」の必要性を実感してきました。それぞれが、それぞれの地域で在宅生活の継続のため、住宅の問題や、また、独居の問題に関わってこられたのではないのでしょうか。皆様方のその実践の報告をぜひ発表してください。

3. 訪問&通所サービス

座長 岡崎 和佳子（有限会社 菜の花）

佐藤 宏之（新潟県薬剤師会）

- キーワード 「個別ケア」「尊厳について」「笑顔をどう引き出す」「寄り添う事」「いろいろあるけれどもまあ」「スキルアップ」「効果的な情報共有」
- 演題例 「効果的なケア計画」「連携について」「援助の悩み」「うまくいかなかった事」
- 趣旨 介護が必要となった時、在宅生活を維持するた

めに「訪問サービス」「通所サービス」は、最も必要とされるサービスです。その援助サービスは、人（自己）から人（他者）へ行うものであり、対人援助です。対人援助職は、「感情労働」ともいわれ、感情が疲弊しがちです。利用者が悲しみの状態なら、何とか救いたいと思う

し、笑顔ならとてもうれしいでしょう。反対に怒りをぶつけられれば、悲しいし、時には怒りを覚える事もあるでしょう。教科書で習った通りにいかないのが、この対人援助です。一生懸命に援助するあまり、燃え尽きたりしないようにしたいものです。自己の「ケア」を

振り返り、他者の「ケア」に学ぶ事は、私たちの「ケア」に発展をもたらすと考えています。全国のケア職仲間と、ともに分かち合い、共有しましょう。

4. 小児と子育て支援

座長 阿武 義人（医療法人社団 青藍会 あんの循環器内科）
坂西 美和子（医療法人社団 萌気会 浦佐認定こども園）

- 趣 旨 少子化の低下に歯止めがかからず、今後の人口減少社会への対応として、従来からこどもと子育てに対する支援については、国を挙げて取り組まれてきたところであるが、消費税引き上げへの対応として、昨年8月、子ども・子育て支援法等が成立し、子育て支援に対する税の配分も明確にされ、一層の拡充強化が図られることとなった。
- 内容的には、①子ども・子育て支援給付と②地域子ども・子育て支援事業に分けられる。
- ① 子ども・子育て支援給付
- 施設型給付として、認定こども園、幼稚園、保育所を通じた共通の給付
 - 地域型保育給付として、小規模保育、家庭的保育、居宅訪問型保育、事業所内保育
 - 児童手当
- が掲げられている。
- ② 地域子ども・子育て支援事業
- 利用者支援、地域子育て支援拠点事業、一時預かり、乳児家庭全戸訪問事業等
 - 延長保育事業、病児・病後児保育事業

- 放課後児童クラブ
- 妊婦健診

が掲げられている。

これらの給付及び事業については、国、都道府県、市町村等の行政はもとより、国民各界・各層の不断の取り組みが求められているが、我々在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワークに参加する者としても、これまで、これらの事業等について、取り組んでおり、一定の役割は果たして来たところである。

については、これまでの事業及び取り組みを総括するとともに、今後さらにこれらの事業・取り組みが会員のみならず、広く進展するよう、新潟大会の実践交流会の演題とするものである。

なお、実践交流会においては、上記事業等のうち、こども園、保育園、事業所内保育、病児・病後児保育、障がい児保育事業、未満児保育事業に関する事項を主として、取り上げることとしたい。

5. 多職種情報共有

座長 桑原 由次（NPO 法人セカンドリーグ埼玉）
貝瀬 孝子（医療法人社団 萌気会 通所リハビリテーション ほのぼの）

- 趣 旨 医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが連携した要介護者等への包括した支援である「地域包括ケアシステム」が推進されています。
- 地域包括支援には、多職種連携による良質のサービス提供が必須です。言い換えれば、利用者の視点に立った連携とコストに伴う質の保障が求められています。
- 連携には、多職種が持つ「利用者情報」を関係者全員で共有しあうことが欠かせません。
- 目標とする生活（参加、活動）を本人、家族含む多職種で共有し、医療情報と日常生活活

動能力、解決すべき課題と具体的方法、利用中のサービス、薬剤情報が一目でわかる資料等が必要となります。

各職種が持つITを活用した「診療情報の共有」、回復期～維持期の医療連携パス、地域での連携パス会議等、様々な試みがなされています。

この「多職種情報共有」実践交流会において更なる共有の進化を期待しています。

6. ケアマネジメント

座長 金田 弘子（医療法人社団もりもと 森本外科・脳神経外科医院）
新保 努（上村医院介護支援室）

キーワード 自立支援・認知症重度化予防実践塾・ふだんの体調管理・プライド重視した関わり・アセスメント・ニーズ・基礎知識・連携・家族・包括職員・事務局と講師はコラボ

趣 旨 寝たきり高齢者・認知症高齢者の自立支援型ケアマネジメント
寝たきり・認知症高齢者のケアマネジメント研修をとおした新しい人材育成に関わっています。H21年、岡山県美作県民局が開催する「認知症重度化予防実践塾」の成果から現在、高知市・浜田市・鳥取県・H25年度は四万十市へと広がっております。ケアマネジメントの研修会といえば、普通は介護サービスを提供する者、つまり専門職を対象にします。しかし、この研修では、認知症の方をお持ちのご家族、サービス提供事業者の職員、地域包括支援センターの職員がメンバーとなっています。そして、約30人の参加者がバランスよくチームを組んで、一緒に基礎理論を学ぶ

ことからはじめ、同じ視点から実際の認知症ケアとケアマネジメントに取り組んでいます。鳥取県の実践塾では8割近い方が改善に導かれていましたが、老健や特養でのチームケアの難しさ、在宅においてはデイサービス・デイケア・ケアマネ・家族との連携不足が課題でした。また、ケアマネのアセスメント不足が起因し、適切なケアプランに反映させてもらえていない、こういった問題を抱える中で、実践塾を振り返ってみて、「参加した動機」「直面したこと」「ケアのおもしろさや難しさ」「めざすケア」を塾生さんとの座談会等、その内容はとてもユニークなものです。成果実践発表会には各市・県民講座を開催・啓発できました。

7. 口腔ケアと栄養管理

座長 大川 延也（大川歯科医院） 安達 大子（新潟県栄養士会）

副 題 在宅療養者にとって食事は残された楽しみ

キーワード 摂食・嚥下障害、誤嚥性肺炎、口腔ケア・リハビリ、低栄養、食支援、食べられる口（義歯）

演 題 例 ・口から安心、安全、楽しく食べるために「装具（義歯）の役割」
・食べるための口をつくる「在宅、施設での口腔ケア・リハビリの取り組み」
・食支援 「家族、多職種みんなで考えよう」
・栄養改善 「入院前の体重に戻すために」
・食べたら出す 「便秘改善のために」

趣 旨 急性期病院から退院する方の多くが在宅、施設に転院します。本来であれば入院中に口から食べられるようになって退院したいところですが、現実的には難しいところです。療養者が在宅で生活復帰する上で最も大切なことは「口から食べること」です。そのためには訪問医を中心に家族、多職種がどのようにサポートしていくかが要となります。それぞれの専門性を生かし、ケアプランを立案するケアマネジャー、脳血管障害の後遺症等、身体的障害のリハビリを担当する理学療法士（PT）、作業療法士（OT）。摂食嚥下障害のリハビリには歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士（ST）、栄養士。全身を見守り、そのすべてをたばねていく医師、訪問看護師。そ

して生活全般を支える家族、介護士の役割は欠かすことはできません。しかし、現実的にはそのすべてのサポーターがそろっているということはありません。「いないからできない」「いないから気がつかない」、そこにはさまざまな問題が潜んでいることが推察されます。ではその地域の環境の中でどのように各職種の専門性を尊重しつつ、現実的な実行計画をたてていったらいいのでしょうか。現場で悩み、工夫しているすべての職種の方々、「療養者が口から食べたい、食べさせたい」という思いを中心に、いろいろな意見、それぞれの取り組みを持ち寄ってディスカッションしていきましょう。きっと希望の光が見えてくるはずです。

8. 認知症

座長 大澤 誠（医療法人あづま会 大井戸診療所） 阿部 葉子（新潟県医療ソーシャルワーカー協会）

キーワード 「早期発見・早期介入」「生活障害」「BPSD」「身体合併症」「看取り」「当事者参加」「環境への働きかけ」「アルツハイマー病治療薬」「非定型抗精神病薬」「家族支援」「認知症ケアの倫理」「若年性認知症」「多職種協働」「多職種協学」「地域包括ケア」などです。

趣 旨 現在4種類のアルツハイマー病の薬が使われています。しかしいずれも、根本治療薬ではなく、進行を遅らせる薬です。「いまだ、治癒することの少ない認知症だから、ご本人とそ

ことが医療やケアに求められています。さらに、不可逆的に進行していく認知症において、患者・家族との信頼関係のもとで、認知症になっても人は生きている限り、幸福に過ごせるという価値の共有が必要です。

つまり、今、本人の思いや願いを大切に、その人らしい生活・人生を全うするために、私たちに何が出来るかが問われているのです。その趣旨のもと、認知症の医療とケアに対する皆さんの取り組みに関して、演題を募集します。

9. 薬と生活

座長 上野 憲夫（新潟県薬剤師会） 田沢 義人（医療法人社団 義友会 田沢内科医院）

キーワード 薬のQOL（食事、排泄、睡眠、運動、認知など）への影響
服薬拒否患者への対応、後で薬を吐き出してしまう患者
残薬の問題、認知症患者の服薬の問題
睡眠薬と夜間頻尿・ふらつき・転倒の問題
認知症のBPSDと薬の関係
お薬と食事の問題、嚥下障害者の内服の問題
などなど

趣 旨 『薬と生活』というテーマは、今大会での新しいテーマになります。薬は治療に欠かせない手段の一つですが、通常の生活においてはあまり必要とされるものではありません。人に

よっては大好きという方もいるかも知れませんが、できたら服用や使用をしたくないという方が殆どと思われます。また、必要な臓器や部位のみに効果が出るならベストですが、外用薬でさえ全身に何らかの影響を及ぼすため、それが副作用として発現してくる場合も有ります。

生活の中で、服薬と服薬後の副作用によるQOLへの影響の問題などをどう認識し、それにどう対応していくのか……それらについて問題提起や実践対策について皆様から多数の発表をしていただきたいと思います。

10. 地域包括ケアシステム

座長 吉永 隆行（キャナル・コンピューター・プリント） 松山 茂樹（新潟県社会福祉士会）

キーワード 地域包括、地域再生、地域との関わり、多職種、
支え合い、連携

趣 旨 当ネットワークには医療・看護・介護関係者が多く、それぞれの専門性を生かした「**地域包括ケア**」への参加・実現が益々重要になってきました。一方で、その実現に向けては私たちの専門性を越えた「**広さ**」と「**深さ**」がさらに必要と感じています。従って、今回の実践交流会の演題の応募に際してはそれらを踏まえ、以下のような内容の演題を扱いたいと考えました。

●日常の専門性を生かした活動の中での「**地域包括ケア**」の具体的事例

●上記を通じて感じた「**地域**」との関わりについての思い

●専門外での地域との関わりで行った活動

●具体的活動はないが、今後の「**地域包括ケア**」に関して、地域との関わりについての思い

「実践」にならない内容でも歓迎します。いろいろな考え方が出ることによって新たな「**気づき**」ができる場になりたいと考えています。

今回の交流会を通じ、「**地域**」「**包括**」という「曖昧だが広い」言葉の持つ可能性に期待しつつ、**診療所・市民**の全国ネットワークらしい方向性を見つけられることを希望します。

大会参加登録・宿泊等のご案内

～お申込は、同封の申し込み用紙にご記入後、郵送または FAX にてお願いいたします

大会参加事前登録開始日 5月 7日(火)

大会参加事前登録締切日 8月20日(火)

※以降は当日受付となります

◆大会参加費

	事前申込み		当日申込み		抄録集
	会 員	非 会 員	会 員	非 会 員	
医師・歯科医師・薬剤師	8,000円	10,000円	10,000円	12,000円	有り
上記職種以外の 医療・福祉・ 介護関係者・行政	5,000円	6,000円	6,000円	7,000円	有り
市民・学生	—		1,000円		冊子

- ・抄録集は1,000円で販売もいたします。

◆懇親会のご案内

- ◎ 日 時 : 9月22日(日) 18時15分～19時45分(予定)
- ◎ 会 場 : ホテル日航新潟 4階「朱鷺」
- ◎ 会 費 : お1人様8,000円(先着400名様)
- ◎ 申込締切日 : 8月20日(火)

◆お弁当のご案内(事前申し込み者のみ)

- ◎ 9月22日(日) 1個1,000円(お茶付)
- ◎ 9月23日(月・祝) 1個1,000円(お茶付)

9月22日(日)・23日(月・祝)のランチョンセミナーは、お弁当(事前申込制)を召し上がりながら参加できます。
なお、お弁当のみの申し込みもできます。 申し込み締切日 8月20日(火)

◆JR(団体料金適用)のご案内

東京方面からご参加の皆様向けに、**団体料金を設定**いたします。指定席ですので、お席の心配をする必要なく、大会にご参加できます。途中駅の上野・大宮からの乗下車も可能です(料金は同じです)。

お得な料金となっておりますので、ぜひともご利用下さい。

なお、各列車の合計乗車人数が、15名様以上の場合に下記料金が適用になります。1団体で15名様以上である必要はありません。全申込者の合計が15名様以上であれば適用されます。また、団体料金適用のため、乗車10日前以降の申込列車の変更・取消はできませんので、お申込の際には十分にご注意願います。

(新幹線普通車指定席通常期片道料金 東京・新潟 10,270 円、上野・新潟 10,070 円 大宮・新潟 9,860 円)

往路	列車名	東京発	新潟着	団体料金
東京→新潟 9月22日(日)	とき 301 号	06:08	08:12	8,000 円
復路	列車名	新潟発	東京着	団体料金
新潟→東京 9月23日(月)	Max とき 340 号	17:20	19:20	8,000 円
	とき 342 号	17:46	20:00	8,000 円

◆宿泊のご案内

◎宿泊期日：9月21日(土)～23日(月)

◎宿泊条件：1泊朝食付／諸税・サービス料込、お1人様あたりの料金

ホテル 記号	ホ テ ル 名	新潟駅からの 所要時間	部屋タイプ	宿泊料金	申込記号
①	ホテル日航新潟 (新潟市中央区万代島 5-1)	新潟駅から バス 10 分	シングル(1 名 1 室利用)	11,500円	①-S
			ツイン(2 名 1 室利用)	10,500円	①-T
②	ANAクラウンプラザホテル新潟 (新潟市中央区万代 5-11-20)	新潟駅から 徒歩 10 分	シングル(1 名 1 室利用)	10,500円	②-S
			ツイン(2 名 1 室利用)	10,000円	②-T
③	ホテルオークラ新潟 (新潟市中央区川端町 6-53)	新潟駅から バス 5 分	シングル(1 名 1 室利用)	10,500円	③-S
			ツイン(2 名 1 室利用)	10,000円	③-T
④	新潟東急イン (新潟市中央区弁天 1-2-4)	新潟駅から 徒歩 1 分	シングル(1 名 1 室利用)	7,800円	④-S
			ツイン(2 名 1 室利用)	7,200円	④-T
⑤	ホテルサンルート新潟 (新潟市中央区東大通 1-11-25)	新潟駅から 徒歩 3 分	シングル(1 名 1 室利用)	7,800円	⑤-S
			ツイン(2 名 1 室利用)	7,200円	⑤-T
⑥	新潟東映ホテル (新潟市中央区弁天 2-1-6)	新潟駅から 徒歩 3 分	シングル(1 名 1 室利用)	7,500円	⑥-S
			ツイン(2 名 1 室利用)	7,000円	⑥-T
⑦	チサンホテル&コンファレンス新潟 (新潟市中央区笹口 1-1)	新潟駅から 徒歩 1 分	シングル(1 名 1 室利用)	7,300円	⑦-S
			ツイン(2 名 1 室利用)	6,800円	⑦-T
⑧	コートホテル新潟 (新潟市中央区弁天 2-3-35)	新潟駅から 徒歩 5 分	シングル(1 名 1 室利用)	6,300円	⑧-S

・ お申込順に受付いたしますが、ご希望に添えない場合もございますので、お早めにお申込ください。

・ 往復の交通機関の手配をご検討の場合、JTB関東法人営業新潟支店までお問い合わせください。

団体料金の適用等、お得な場合がございます。

◆お申込のご案内

①【郵送・FAXでのお申し込み】

ご参加希望の方は、「申込書」に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXにて、**8月20日(火)までに、JTB関東法人営業新潟支店宛にお申し込み下さい。**

郵便の場合は、必ず「申込書」原本の控え(コピー)を保管して下さい。

FAXでお申し込みの際は、**FAX番号(025-248-7687)**をお確かめの上、送信願います。

②【受付後の流れ】

受付確認後、請求書をお送りさせていただきますので、記載された期日までにお振込み願います。指定銀行口座は、請求書に記載されております。恐れ入りますが、振込手数料は、お客様ご負担にてお願いいたします。

ご入金を確認後、大会参加証・抄録集・宿泊券・懇親会参加証・弁当引換券等の書類を、9月4日(水)頃、一括して各団体の申込代表者様宛にお送りさせていただきます。

なお、期日までにお振込のない場合は、ご予約を取り消しさせていただく場合もございます。あらかじめご了承ください。

◆変更・取消につきまして

- ①変更・取消のご連絡は、FAXまたは郵送にてお願いいたします。なおトラブル防止のため、電話での変更・取消の受付はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- ②取消のご依頼を、弊社休業日(土・日・祝日)及び営業時間(09:30～17:30)外にされた場合は、翌営業日の取り扱いとさせていただきます。
- ③参加申込後の大会参加費のご返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
- ④取消後の返金につきましては、大会終了後、取消料及び所定の振込手数料を差し引きの上、ご返金させていただきます。なお、事務処理上、多少の日数がかかりますので、あらかじめご了承ください。
- ⑤申込後の取消料につきましては、下記の通り申し受けいたします。

※2名様1室ご利用の予定が、同室の方が取消となったために、1名様1室ご利用になられた場合は、下記の取消料金と2名様1室ご利用料金と1名様1室ご利用料金の宿泊代金の差額が必要となります。

(例)ホテル日航新潟2名様1室ご利用で、宿泊3日前に1名様取消になった場合

宿泊取消料 3,450 円(11,500 円×30%) + 1名様利用になる差額 1,000 円(11,500 円－10,500 円)＝4,450 円

◆取消料のご案内

お申込後に取り消しをされる場合、所定の取消料を申し受けいたします。

	参加費	宿泊代金	懇親会	昼食弁当
21日前まで	無 料	無 料	無 料	無 料
20日前～8日前まで	100%(全額)	無 料	無 料	無 料
7日前～2日前	100%(全額)	20%	30%	30%
前日	100%(全額)	40%	100%	100%
当日(出発前まで)	100%(全額)	50%	100%	100%
出発後または無連絡不参加	100%(全額)	100%(全額)	100%(全額)	100%(全額)

- ・ 別途ご案内いたしますJRの団体料金適用列車の取消料金は、乗車日の10日前以降、全額がかかります。

《お問い合わせ先・お申込先》

〒950-0082 新潟県新潟市中央区東万代町 1-30 3 階

JTB関東法人営業新潟支店

「第 19 回全国の集いin新潟」受付デスク 担当:元井・後藤・三谷

TEL:025-255-5101/FAX:025-248-7687

E-mail:niigata_ec@web.jtb.jp

営業時間:月～金 09:30～17:30/土・日・祝日休業

総合旅行業務取扱管理者 森岡 雄治

総合旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取扱う営業所での取引の責任者です。この旅行の契約に関し、担当者からの説明にご不明な点がございましたら、上記の旅行業務取扱管理者にご質問下さい。

ご旅行条件(要約)

お申し込みの際には、必ず旅行条件書(全文)をお受け取りいただき、事前に内容をご確認の上お申し込みください。

●募集型企画旅行契約

この旅行は(株)JTB 関東(埼玉県さいたま市中央区新都心 11-2 観光庁長官登録旅行業第 1578 号。以下「当社」という)が企画・実施する旅行であり、この旅行に参加されるお客様は当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」という)を締結することになります。また、旅行条件は、下記によるほか、別途お渡しする旅行条件書(全文)、出発前にお渡しする最終日程表と称する確定書面及び当社旅行業約款募集型企画旅行契約の部によります。

●旅行のお申し込み及び契約成立時期

- (1) 所定の申込書に所定の事項を記入し、下記のお申込金を添えてお申し込みください。お申込金は、旅行代金お支払いの際差し引かせていただきます。
- (2) 電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段でお申し込みの場合、当社が予約の承諾の旨通知した翌日から起算して3日以内に申込書の提出と申込金の支払をしていただきます。
- (3) 旅行契約は、当社が契約の締結を承諾し、申込金を受領したときに成立するものとします。
- (4) お申込金(おひとり) 6,000 円

●旅行代金のお支払い

旅行代金は旅行出発日の前日からさかのぼって 13 日目にあたる日より前(お申し込みが間際の場合は当社が指定する期日までに)にお支払ください。また、お客様が当社提携カード会社のカード会員である場合、お客様の署名なくして旅行代金、取消料、追加諸費用などをお支払いいただくことがあります。この場合のカード利用日は、お客様からお申し出がない限り、お客様の承諾日といたします。

●取消料

旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除されるときは、次の金額を取消料として申し受けます。

取消日(旅行開始日の前日からさかのぼって)	宿泊取消料
1) 8 日目にあたる日以前の解除	無 料
2) 7 日目にあたる日以降の解除(3~5を除く)	旅行代金の20%
3) 前日の解除	旅行代金の40%
4) 当日の解除(5を除く)	旅行代金の50%
5) 出発後又は無連絡不参加	旅行代金の100%

貸切船舶を利用する旅行については、上記の表によらず、コースページ内に記載する取消料に拠ります。

●旅行代金に含まれるもの

旅行日程に明示した運送機関の運賃・料金(注釈のないかぎりエコノミークラス)、宿泊費、食事代、及び消費税等諸税。これらの費用は、お客様の都合により一部利用されなくても原則として払い戻しいたしません。(コースに含まれない交通費等の諸費用及び個人的費用は含みません。)

●特別補償

当社は、当社又は当社が手配を代行させた者の故意又は過失の有無にかかわらず、募集型企画旅行約款別紙特別補償規程に基づき、お客様が募集型企画旅行参加中に急激かつ偶然な外来の事故により、その身体、生命又は手荷物上に被った一定の損害について、以下の金額の範囲において、補償金又は見舞金を支払います。

- ・ 死亡補償金: 1500万円
- ・ 入院見舞金: 2~20万円
- ・ 通院見舞金: 1~5万円
- ・ 携行品損害補償金: お客様1名につき~15万円(但し、補償対象品1個あたり10万円を限度とします。)

●「通信契約」を希望されるお客様との旅行条件

当社提携クレジットカード会社のカード会員(以下「会員」といいます。)より「会員の署名なくして旅行代金や取消料等の支払いを受ける」こと(以下「通信契約」といいます。))を条件にお申込みを受けた場合、通常の旅行条件とは以下の点で異なります。(受託旅行者により当該取扱ができない場合があります。また取扱できるカードの種類も受託旅行者により異なります。)

- (1) 契約成立は、当社が電話又は郵便で旅行契約の締結の承諾通知を発信したとき(e-mail 等電子承諾通知を利用する場合は、その通知がお客様の到達したとき)とします。また申込時には「会員番号・カード有効期限」等を通知して頂きます。
- (2) 「カード利用日」とは旅行代金等の支払い又は払戻し債務を履行すべき日をいいます。旅行代金のカード利用日は「契約成立日」とします。(但し、成立日が旅行開始前日から 14 日目にあたる日より前の場合は「14 日目(休業日にあたる場合は翌営業日)」とします。)また取消料のカードの利用日は「契約解除依頼日」とします。(但し、契約解除依頼日が旅行代金のカード利用日以降であった場合は、当社は旅行代金から取消料を差し引いた額を解除依頼日の翌日から起算して 7 日間以内をカード利用日として払い戻します。)
- (3) 与信等の理由により会員のお申し出のクレジットカードでのお支払いができない場合、当社は通信契約を解除し、規定の取消料と同額の違約料を申し受けます。ただし、当社が別途指定する期日までに現金による旅行代金のお支払いをいただいた場合はこの限りではありません。

●国内旅行保険への加入について

旅行先において、病気・けがをした場合、多額の治療費、移送費等がかかることがあります。また、事故の場合、加害者への損害賠償請求や賠償金の回収が大変困難であるのが実情です。これらの治療費、移送費、また、死亡・後遺障害等を担保するため、お客様自身で充分な額の国内旅行保険に加入することをお勧めします。詳細については、販売店の係員にお問合せください。

●事故等のお申出について

旅行中に、事故などが生じた場合は、直ちに同行の添乗員・現地係員・運送・宿泊機関等旅行サービス提供機関、又は、お申込店にご通知ください。(もし、通知できない事情がある場合は、その事情がなくなり次第ご通知ください。)

●個人情報の取扱について

- (1) 当社及び販売店は、旅行申込の際に提出された申込書等に記載された個人情報について、お客様との間の連絡のために利用させていただくほか、お客様がお申し込みいただいた旅行において運送・宿泊機関等の提供するサービスの手配及びそれらのサービスの受領のために手続に必要な範囲内で利用させていただきます。
- (2) 当社は、旅行先でのお客様のお買い物等の便宜のため、当社の保有するお客様の個人情報を土産物店に提供することがあります。この場合、お客様の氏名及び搭乗される航空便名に係る個人情報をあらかじめ電子的方法等で送付することによって提供いたします。なお、これらの個人情報の提供の停止を希望される場合は、お申込店に出発前までにお申し出ください。

●旅行条件・旅行代金の基準

この旅行条件は 2013 年 4 月 1 日を基準としています。又、旅行代金は 2013 年 4 月 1 日現在の有効な運賃・規則を基準として算出しています。

1994年	1月29日	NHK 暮らしのジャーナル「かかりつけ医」特集を契機に、萌気園診療所の呼びかけで、あいち診療所野並・なかじま診療所が交流。「診療所ルネサンス」を合言葉とする。
	7月9日～10日	『ネットワーク結成第1回準備会』を名古屋で開催。以後、岡山・広島・鳥取・郡山（福島）・松本（長野）・東京・松江（島根）で準備会を開催。
1995年	9月23日～24日	在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク結成全国の集い in 東京 テーマ『在宅医療と診療所医療』
1996年	11月3日～4日	第2回全国の集い in 大阪 テーマ『在宅ケアの連携と診療所の役割』
1997年	5月3日～5日	訪問看護婦リーダー研修会開催
	11月23日～24日	第3回全国の集い in 名古屋 テーマ『安心できる医療と福祉を求めてー診療所への信頼の回復は在宅医療から』
1998年	7月19日～20日	第4回全国の集い in 東京 テーマ『実りある人生を支える在宅ケア 私たちにできること』
1999年	1月・2月	訪問看護婦リーダー研修会・リハビリ職リーダー研修会開催
	9月	「在宅医療実践マニュアル」を編集出版する
	10月10日～11日	第5回全国の集い in 岡山 テーマ『医療に個別の生活を取り戻せるかーよみがえる世紀末診療所』
2000年	9月23日～24日	第6回全国の集い in 京都 テーマ『京都から更なる診療所の維新を』
2001年	10月7日～8日	第7回全国の集い in 東京 テーマ『在宅ケアを定着させるために』
2002年	9月	NPO 法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク認証
	9月22日～23日	第8回全国の集い in 仙台 テーマ『今できる事を伝えよう』
2003年	9月14日～15日	第9回全国の集い in 岐阜 テーマ『見つめなおそう、われらの役割』 厚生労働省から「痴呆性高齢者の在宅生活医療支援プロジェクト」事業を継続受託
2004年	9月19日～20日	第10回全国の集い in 千葉 テーマ『地域で育てよう、われらの在宅ケア』 厚生労働省から「痴呆性高齢者の在宅生活医療支援プロジェクト」事業を継続受託
2005年	9月18日～19日	第11回全国の集い in 広島 テーマ『いのち輝く在宅ケア～市民とともに地域の暮らしを変えよう～』
2006年	9月17日～18日	第12回全国の集い in 長崎 テーマ『命の大切さと尊厳をいかに守るか』
2007年	8月	機関紙「風の萌」創刊準備号発行
	9月16日～17日	第13回全国の集い in 東京 テーマ『支え合う地域の創造』
	10月	東京事務局・名古屋事務局・大阪事務局の3つの事務局が統合され、東京都文京区に「事務局」を構える
2008年	9月14日～15日	第14回全国の集い in 京都 テーマ『伝統の京都で100年後の暮らしを考える』
2009年	9月20日～21日	第15回全国の集い in 群馬 テーマ『ここを科学し暮らしに寄り添い地域を創る ～多職種協働ネットワークがパラダイムを変える～』
2010年	10月10日～11日	第16回全国の集い in 名古屋 テーマ『家族を大切にできる地域づくり』
2011年	9月18日～19日	第17回全国の集い in しんしゅう テーマ『住みなれた地域で最期まで暮らしつづけるために』
2012年	9月16日～17日	第18回全国の集い in 高知 テーマ『おらんくで自分らしくさいごまで』

ネットワークへの入会のご案内

『在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク』は、限定的な理念や目標で統一されたものでなく、『在宅ケアを支える』という一点でつながり、それぞれの個性や違いを認めながら、在宅医療を推進できる環境の整備と診療所医療に対する信頼の回復を目標として活動をすすめてきました。そして2009年9月、診療所をキーとしながらも、当事者・市民との連携共同をめざし、NPO法人化しました。

診療所を中心として在宅ケアに関わるすべての職種や当事者の方々が「ネットワーク」することによって、お互いを賦活しあい、それぞれの夢を膨らませ、困難を乗り越えていこうではありませんか。皆さんの入会と様々な活動への参加をお待ちしています。

現代は 医療を医療者にお任せにする時代ではなく、自分の体は自分で守る時代です。このネットワークは診療所をキーワードにはしていますが、どなたにも開放されたネットワークです。利用者の立場で信頼できる診療所を育てるためにもぜひご参加ください。

なお、入会申込書は次ページのインターネットからの申込も可能です。

<http://www.home-care.ne.jp/np/nyuukaiannai/>

入会申込書

私は、「特定非営利活動法人 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」の活動方針、内容に賛同し、入会を申し込みます。

正会員・会員種別 (○を付けてください)		準会員氏名	
医師・法人会員 氏名	ふりがな		
事業所会員 氏名	ふりがな		
市民団体会員 氏名	ふりがな		
市民会員 氏名	ふりがな	◆医師・法人会員は4人まで、事業所会員・市民全体会員は2人まで、準会員として登録できます。	
団体名 (市民会員は不要)		職 種	(例: 医師/市民会員も明記してください)
住 所	〒		
T E L		F A X	
E-mail		ホームページ	
ホームページに公開する会員名簿への掲載 (いずれかに○をつけてください) 可 ・ 不可			

入会希望の動機 または ご紹介者名	ひとことコメント
-------------------	----------

入会の手続き

- ① この「入会申込書」に必要事項をご記入のうえ、事務局へ郵送またはFAXで送信してください。

◆郵送先/お問い合わせ 〒112-0014 東京都文京区関口1-19-6 弥助ビル5階
 株式会社・コンピュータ・プリント内
 TEL:03-3235-7906 FAX:03-3235-4880

- ② 年会費・入会金をご確認のうえ、下記口座のいずれかへお振り込みください。

会員種別	年会費	入会金	合 計
医師・法人会員	20,000円	5,000円	25,000円
事業所会員	10,000円	3,000円	13,000円
市民団体会員	10,000円	3,000円	13,000円
市民会員	3,000円	1,000円	4,000円

◆振込先 (1) 三菱東京UFJ銀行 野並支店(店番697) 普通口座番号:0025988

名義人 特定非営利活動法人 在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク 会長 荷原 実

振込先 (2) ゆうちょ銀行 記号 10080 番号 86488031

名義人 NPO 在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク

注) 振込人欄の先頭には個人名を記載してください。冒頭に法人・団体名を記載されると、振込人の判別ができない場合があります。

- ③ 入金確認後、入会手続きの完了通知書を送付させていただきます。

第19回 全国の集い in 新潟 2013

主 催 NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク（略称：在宅ケア全国ネット）

共 催 新潟市

主 管 第19回 全国の集い in 新潟 2013 実行委員会

後 援

厚生労働省

新潟県

南魚沼市

社団法人 日本医師会

社団法人 新潟県医師会

社団法人 新潟市医師会

社団法人 日本歯科医師会

社団法人 新潟県歯科医師会

社団法人 新潟市歯科医師会

公益社団法人 日本看護協会

公益社団法人 新潟県看護協会

公益社団法人 日本薬剤師会

社団法人 新潟県薬剤師会

公益財団法人 日本訪問看護団

公益社団法人 日本理学療法士協会

公益社団法人 新潟県理学療法士会

一般社団法人 日本作業療法士協会

社団法人 新潟県作業療法士会

一般社団法人 日本言語聴覚士協会

社団法人 日本社会福祉士会

社団法人 新潟県社会福祉士会

新潟県精神保健福祉士協会

社団法人 日本介護福祉士会

公益社団法人 新潟県介護福祉士会

日本ホームヘルパー協会

新潟県ホームヘルパー協議会

一般社団法人 日本ケアマネジメント学会

一般社団法人 新潟県介護支援専門員協会

公益社団法人 日本栄養士会

公益社団法人 新潟県栄養士会

一般社団法人 新潟県歯科衛生士会

新潟県医療ソーシャルワーカー協会

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会

社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

社団法人 新潟県老人福祉施設協議会

公益社団法人 全国老人保健施設協会

一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会

一般社団法人 日本在宅医学会

一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会

一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

全国老人デイ・ケア連絡協議会

特定非営利活動法人 日本アビリティーズ協会

学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーション大学

長岡こども福祉カレッジ

上越保健医療福祉専門学校

長岡看護福祉専門学校

新潟日报社

BSN 新潟放送

TeNY テレビ新潟

（2013年3月現在 順不同）

大会会場への交通案内



朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

〒950-0078 新潟県中央区万代島6番地1号

TEL. 025-246-8400

【アクセス】

◆ JR 新潟駅よりタクシーで約5分

◆ JR 新潟駅より徒歩約20分

◆ お車の場合

〔日本海東北自動車道〕亀田I.C. より約20分

〔磐越自動車道〕新潟中央I.C. より約30分

〔北陸自動車道〕新潟西I.C. より約30分